



メキシコ・日本アミーゴ会設立15周年記念号

設立15年を迎えたアミーゴ会

会長 上原尚剛

去る9月19日、15年前に設立総会・懇親会が行われたと同じお台場の日航ホテルで、メキシコ・日本アミーゴ会設立15年を記念する懇親会が、メキシコ大使館からカルロス・アルマーダ駐日メキシコ大使ご夫妻とアルマンド・アリアガ次席をお招きして開催されました。

当日は好天にも恵まれ、総勢50名を超す参加者で、アルマーダ大使にはアミーゴ会の活動が今後共日墨友好親善を一層深める事に期待する旨のご挨拶を頂くと共に乾杯の音頭を取って頂き、全員で乾杯の後に和やかに過去15年を振り返っての懇談に入りました。また今回は15周年の祝いとして、友情出演頂いた今村夏海さんのアルパ演奏が父君今村瞭さんのギター伴奏で披露され、会場が大いに盛り上がった雰囲気の中でのお開きになりました。

丁度この日からお台場のプロムナード広場では、メキシコの独立記念日に合わせて毎年行われるFIESTA MEXICANA が開幕しましたので、懇親会の後そちらでメキシコの雰囲気を味わった方も多かったと思います。



アミーゴ会のこれまで15年の活動状況につきましては、7月発行の「アミーゴ会だより23号」で概略ご報告しましたのでお読み頂いたと思いますが、今後共「アミーゴ会だより」の発行を初めとして今まで同様色々な活動を行って行く所存です。特にメキシコの歴史文化講演会に就きましては、これから来年にかけて「メキシコの歴史で活躍した女性」という題の下、数回行うべく講師の選定など準備を進めていますのでご期待頂きたいと思います。

その他会員同士の親睦を深める行事としましては、恒例の3月総会後の懇親会、ゴルフ大会の開催など予定して居り、都度ご案内を差し上げますので奮ってご参加頂ければ幸いです。また毎年行って来ました日本メキシコ学院(リセオ)の生徒のホームステイにつきましても、アミーゴ会の重要な活動の一つとして今後共継続して参る所存ですので、ホストファミリーの紹介など会員の皆さまの温かいご支援を頂ければ幸いです。

処でこうした活動は今後共継続して行く一方で、正直言ってこれだけで良いのかと言う疑問もなきにしも非ずです。会則には会の目的として、「会員相互の親睦を図り、メキシコ・日本間の友好親善に寄与すること」とあります。従って在日メキシコ人を会員に勧誘し、会員相互の親睦を図る行事に参加して貰うのが本来の目的に沿うのではないかと思います。今後幹事会で色々な角度から検討して見たいと思います。



その他、会員の皆さんからも今後のアミーゴ会の活動に対しご意見、ご希望などありましたらご遠慮なくお申し出頂ければ幸いです。

= 目次 =

1. 設立15周年：「設立15年を迎えたアミーゴ会」	アミーゴ会会長	上原尚剛	...1
2. 設立15周年：記念懇親会写真集		編集部	...2
3. 活動報告：「御宿・日墨学生交流2015の報告」	御宿・実行委員会会長	土屋武彌	...3
4. メキシコへの誘い：「レフォルマに並ぶ歴史 銅像でたどる偉人案内(第2部-①)」		酒井梢恵	...5
5. メキシコ・ビジネス事始め：「ANAメキシコ支店開設」全日空メキシコ営業支店長		大下秀史	...8
6. お知らせ：アミーゴ会懇親ゴルフ大会(11月12日)	...2 / あとがき	...8	

「御宿における日本メキシコ学生交流プログラム2015」を終えて

日本メキシコ学生交流プログラム実行委員会
会長 土屋武彌

千葉県御宿町で「日本メキシコ学生交流プログラム 2015」を実施しました。昨年に続き第2回目の事業でした。昨年の実施経験を参考にプログラムの内容チェックから入りました。そしてメキシコ全土に公募をし、7都市から最終選抜した10名が来日し、7月11日から8月9日までの30日間、日本語研修と日本の伝統・文化体験を内容を吟味しながら実行していきました。滞在中の宿泊は20日間は千葉工業大学の協力により、同大の御宿研修センターと新習志野寮の素晴らしい環境のもとに日本語集中研修と食事管理、快適な宿泊をさせていただきました。残る10日間は御宿でのホームステイにより日本家庭の実生活体験をさせました。

ホストファミリーの連携と協力

今年の学生たちを受け入れたホストファミリーは殆どが昨年の経験者でした。ホストファミリーは情報を共有して学生たちを預かったことに始まり、プログラムの急な時刻変更にも理解を示して送迎をしたり、プログラム中の行事には積極的に参加して学生たちの活動を把握したり、また特に毎日の健康状態の異変を適宜事務局に報告したり等と、ホストファミリーと宿泊学生の距離を縮めて家族の一員としての一体感を味わえる体験でした。学生たちは皆素晴らしい家族だったと言い、ホストファミリーは素晴らしい学生だったと印象を語っておりました。



日本語が拓く御宿町民との交流と友情

主催地の御宿町民は来日学生たちがメキシコで日本語を学んでいる情報を持っておりました。従ってメキシコ学生を安心して迎える気持ちがあったことが交流と友情を広げる緒となりました。滞在中の大学宿泊施設のスタッフやホストファミリーの積極的な会話、町職員への笑顔の挨拶、日本語講師との心のつながり、日本の生活を理解する上で、こうした交流が毎日の行動を通して深まり、それによって学生たちの日本語コミュニケーション能力が上達していきました。



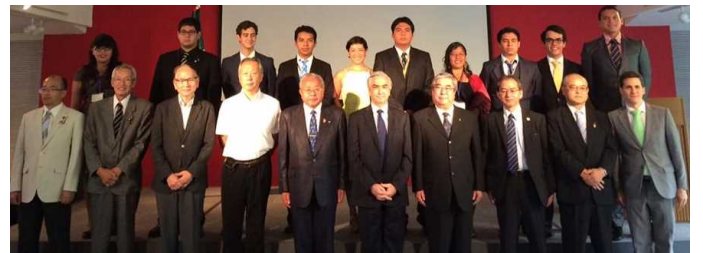
日本語教師のすばらしい指導力

日本語研修の2名の先生はやさしく親切（学生たちの感想）で、語意の確認に始まり、会話中の敬語の使い方の学習、毎朝の1分間スピーチによる表現訓練に、学生たちの行動は日増しに積極的な振る舞いに変わっていきました。

プログラムの中で新たに採用したパネルディスカッション「21世紀における日本とメキシコの交流—御宿からの提言—」では、日本人学生たちとの2時間に亘る討論をすべて日本語で通し、提言を「絆」で結び、日本語で合唱を呼びかけ唄う童謡「月の沙漠」に、会場内の観客には目頭を拭う姿も見られました。



駐日メキシコ大使館での成果発表会では、1ヵ月間の纏めとして全学生が一人一人日本語で立派に発表し終わった時、観客の皆が心からの拍手と安堵感とで一体となった瞬間でありました。学生たちは修了証書を授与され、喜びの笑顔でカルロス・アルマーダ大使との写真撮影となりました。



1ヵ月に及ぶ日本語研修は、内村浩子先生と飯塚知子先生の献身的なご指導で大きな成果を挙げることができました。ここに改めて感謝申し上げます。



日本の伝統文化に驚きの体験

「これが日本の文化」を体験させたい想いで企画した中から、書道、陶芸、座禅、茶道、和食の作法と調理、郷土つるし雛の製作に専門家の方々に講師として協力いただきました。文化体験は楽しさあり、難しさあり、苦痛あり、豪華さありで、巧みな包丁さばきに貴重な体験をしました。



この他、静岡県久能山東照宮を詣で、ロドリゴ・デ・ビベロを謁見した徳川家康を国宝社殿で正式参拝し、その後で富士山・三保の松原を見学しました。ホストファミリーや御宿アミーゴ会の皆さんも同行し、楽しいバス旅行となりました。



[千葉工業大学歓迎会 8月3日]

学生たちの心に残る小野元駐墨大使の言葉

予定時間をはるかに超えて学生たちを魅了した小野正昭大使との懇談会の一部を紹介します。

「国内・国外ともに将来が見えない時代に、どのように生きるかが重要である。若い人たちには外国に出て異文化と出会えることが重要である。若い時の出会いは人生を変え、外国生活によって自分を再発見する」と大使は力説された。1609年に御宿の住民がドン・ロドリゴ・デ・ビベロ一行317名を救出してから400年以上の友好の歴史が両国民にはあり、メキシコシティにはリセオ（日墨学院）があり日本人とメキシコ人が同じ学校で交流していると紹介された。「若い人たちに今経験してほしいことは、お互いの違いを認め、尊敬し、協力すると大きな力が出ること」、さらには「1つの文化と1つの文化がプラスする2つ以上のハイブリッド化を経験して欲しい」と強調された。



学生たちの質問にも大使は「友情はタダで得られるものではない。最大の思いやりをもって育む努力が必要である」、「人生は出会いで始まり、育まれた友情は受け継がれ、友情は時代を超えて強固になる」と応答され、穏やかな雰囲気の中での有意義な懇談会でした。

親善使節として交流したメキシコの学生たち

真夏の御宿町を中心に、学生たちは良く学び、食べ、笑い、多くの日本人を知り、交流しました。



学生たちが学んだ日本語は多くの交流を作りました。「言葉が世界を拓く」—彼らは見事にそれを実践しました。すばらしい親善使節の役目も実行し、満足してメキシコに帰国しました。何人かの学生たちが日本留学にチャレンジしようとしております。学生たちの視点は新しい目標を探しています。惜しむことなく協力したいと思います。

学生交流プログラムに協力いただいた皆様へ感謝

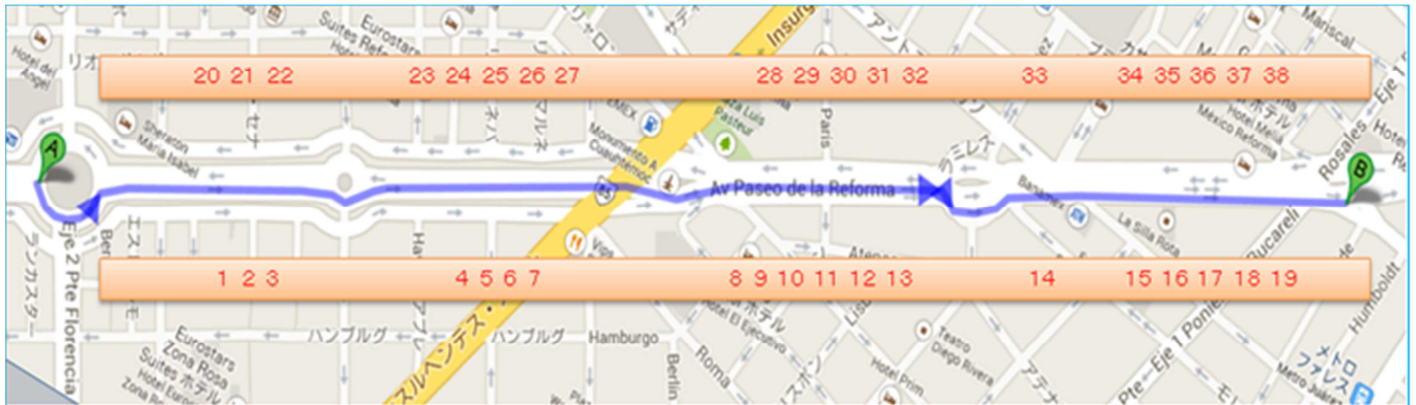
今年の学生交流プログラムは日本国外務省、在日メキシコ大使館、千葉県、御宿町の後援のもとに実施しました。多くの皆様にご協力をいただきました。また財団法人等各位により事業資金の協賛助成をいただきました。そして、メキシコ・日本アミーゴ会上原会長様、日墨交流会守時副会長様のご配慮とご協力に感謝し、第2回事業の報告と致します。 <了>

レフォルマに並ぶ歴史(第2部-①)

～銅像でたどるメキシコ偉人案内～

前メキシコ観光(メキシコ) 酒井梢恵

[編集部注:「レフォルマに並ぶ歴史～銅像でたどるメキシコ偉人案内」は本誌第16号(2013年10月)より連載が始まり、通常の旅行ガイドでは読めない内容で大好評でしたが、残念ながら連載第7回(第22号2015年4月)で最終回を迎えました。しかし、会員読者から連載再開の熱い要望が多数編集部に寄せられ、筆者の酒井梢恵さんにご無理をお願いしたところ「第2部」として再び連載することができるようになりました。引き続き「メキシコ偉人伝」をお楽しみ下さい。なお、筆者は2015年6月にメキシコ観光を退社し日本で新しい生活をはじめておられることを申し添えます。]



DON NICOLAS GARCIA DE SAN VICENTE

(地図中 35)



1793年11月28日、イダルゴ州 ACAXOCHITLAN に生まれた教育者である。1809年16歳のときにプエブラ州の ZACATLAN の神学校 SEMINARIO DE PUEBLA に入学し神学を勉強した。その後メキシコシティの大学に移り、市民権と教会法について教養を深め、1818年25歳のときに学業を修めた。1821年には司祭の位を授かり、1823年30歳でイダルゴ州の ULANCINGO の議員に選出された。

その後は元より強い関心を抱いていた教育に関わり始め、1828～29年にかけて自らが創設した「Asociacion para la Protección de la Instrucción Publica (民間教

育保護協会)」の代表を務めた。1839～1840年には地元の神学校で、自らがラテン語とスペイン語文法の教鞭を執った。また生徒のためにたくさんの教科書を出版し、この学校での職務を全うし、1845年12月メキシコ州トルーカにてその生涯を終えた。

DON JULIAN VILLAGRAN

(地図中 16)



1755年、イダルゴ州の HUICHAPAN に生まれた独立革命(1810～1821年)の戦士である。荷馬車屋として働いていたが1811年にイダルゴ率いる解放軍に息子の FRANCISCO(愛称: EL CHITO)と共に加わり、TULA や IXMIQUILPAN 周辺の戦士たちを率いて、

3年に渡って ZIMAPAN 周辺の広い領域を政府軍から守り抜いた。

しかし 1813 年、彼に不幸が訪れる。戦いの途中で息子 EL CHITO が政府軍に付く王党派によって HUICHAPAN で捕えられ捕虜となってしまったのである。王党派の軍隊は、DON JULIAN に武器を捨て、戦いを止めれば、息子を自由の身とすると提案したが、独立への強い思いを持った彼は、その申し出を受け入れることなく、息子 EL CHITO は間もなく銃殺刑に処された。5月14日のことであった。その後も自らの部下を率いて戦いを続けるも、JULIAN 自身も同年6月13日に36人の仲間と共に捕えられてしまう。独立戦争において多大なる犠牲を払った彼であったが、独立達成の瞬間を見ることもなく同月21日に22人の同士たちと共に銃殺刑に処されることとなった。その後、彼らの犠牲の元に独立が達成されたのは、8年も後のことであった。

DON IGNACIO RAMIREZ

(地図中 38)



1818年6月23日、グアナファト州の SAN MIGUEL EL GRANDE (現在の SAN MIGUEL DE ALLENDE) に生まれ、作家・新聞記者・科学者・自由主義派の政治家など、様々な分野で活躍した人物である。

彼が勉学を始めたのはケレタロであったが、1835年17歳のときメキシコシティに移り、ACADEMIA DE SAN JUAN DE LETRAN で芸術と法学の勉強を開始した。ここで彼は自由主義・教権反対・無神論などの思想に触れたのであった。その後の人生では、多岐に渡る分野で活躍したので、それぞれのエピソードを紹介していく。

1つ目は、議員としての活動である。彼は1852年と1857年の2度に渡ってシナロア州の議員に選出され、連邦議会(立法府)では、その雄弁さで存在感を発揮した。レフォルマ戦争(1857~1861年)では、BENITO JUAREZ に付いて、自由主義側で戦い、勝利をおさめた。

彼の自由主義や信教の自由に基づいた思想は、自由主義的憲法である「1857年憲法」*1や1859年の「改革法」*2の制定の際、大きな力となった。

2つ目は法律家としての一面である。議員としての仕事を全うした後1868年、43歳のときに上級裁判所裁判官に任命された。そこでも彼の雄弁さや科学に関する深い知識、誠実さが人々の信頼を買った。1879年6月の死の瞬間まで、この仕事に専念した。

もう1つは作家としての活動である。1845年、27歳で新聞社に入社し、新聞記者となった。後に詩人としても活躍し、19世紀の偉大な散文作家のひとりとして評価を得ている。彼の作風は全く異なる2つのテーマを1つにまとめるというもので、代表作は1873年に発表した『La Lluvia de Azogue(水銀の雨)』や1884年の『Observaciones de meteorologia marina y Lecciones de literatura (海洋気象学の批評と文学の講義)』とタイトルから察せられるように、一風変わったものである。そういった作風から「文学界の黒魔術師」という異名で親しまれたのであった。

(注)*1,*2: <https://ja.wikipedia.org/>で「レフォルマ戦争」を検索

GENERAL DON MANUEL CEPEDA PERAZA

(地図中 36)



1828年1月19日ユカタン州のメリダに生まれた軍人である。1847年19歳のときにユカタン州軍から召集を受け入隊した。この年「カスタの戦い(1847~1901年)」(完全な解決まで50年以上の年月と400万を超える人命を費やした、マヤ系先住民によるスペイン人植民者やその子孫であるクリオージョやメスチソに対する蜂起)が幕を開けた。この戦いでの活躍により、彼は23歳のときに大尉の階級を授かった。

一方メキシコは1821年に独立を遂げると、更なる激動の時代に入った。「レフォルマ戦争(1857~1861年)」*1(ローマカトリックの教会勢力と軍事勢力が主導権を握る中央集権制を求める保守派と、古い体制を排除し、外国勢力の如何なる介入を受けない連邦制を望む自由主義派との内戦で自由主義派が勝利した)を経て、

1861年に自由主義派の主導者であり先住民の BENITO JUAREZ が大統領に就任し、共和制が始まった。JUAREZ は国内の経済安定を目的に国債の利子の支払を拒否したことで、債権国の仏・英・西の逆鱗に触れた。打倒共和制に向けて保守派とフランスのナポレオン 3 世が手を組み戦いが始まった。この戦いが「フランス干渉戦争(1861~1867年)」^{※2}である。フランスは、首都に軍隊を派遣して攻略し、ハプスブルク家の MAXIMILIANO (在位 1864年4月~1867年6月)を皇帝に据えた傀儡政権を打ち建て、帝政を開始した。

フランスを後ろ盾にした保守派であったが、国民からの支持を得られなかった。また南北戦争を終えたアメリカ合衆国が自由主義派を支援したことから、戦局は自由主義派の有利に進んだ。

DON MANUEL に話を戻すと、このフランス干渉戦争の終盤で彼が活躍する。1867年4月、DON MANUEL 率いる自由主義軍は、保守派が堅く守っていたメリダを包囲し、同年6月には降参させ、ユカタン州の州都を奪還した。その時 MAXIMILIANO はケレタロへ逃れていたが、捕えられ同年同月「鐘の丘」で側近たちと銃殺刑に処され帝政が幕を閉じた。フランス干渉戦争後、再び JUAREZ が大統領となり共和制が再開した。DON MANUEL 大尉はメリダ奪還の功労者であったことから、ユカタン知事に任命され、彼はその愛国心を持って職務を全うし、1869年に41歳という短い生涯を終えた。

この話に登場した傀儡政権の皇帝 MAXIMILIANO は、フランス政府の後ろ盾を欲する保守派の支持を得ていたが、彼自身は自由主義的な思想を持っており、在位中も JUAREZ 時代の政策を支持した人物であった。

(注)^{※1,※2}:<https://ja.wikipedia.org/>で「レフォルマ戦争」および「メキシコ出兵」を検索

DOCTOR DON RAFAEL LUCIO NAJERA

(地図中 37)



1819年9月16日、ベラクルス州のハラパに生まれた医者であり科学者である。中流家庭に生まれたが、間もなく父を亡くし片親で育てられた。母の再婚にあたり一家はサン・ルイス・ポトシに転居した。彼はそこで、天職となる医療の道に進むことを決めた。

19歳の時にメキシコシティの医療科学機関に登録され、研究員になると全ての分野において優れた成績を修め、23歳で医師の資格を得た。翌年24歳にして首都メキシコシティの SAN LAZARO 病院の理事長に任命され、その後17年に渡ってこの病院に勤めることになった。その間、医学や法医学の教鞭をとり、その傍ら彼がその生涯を捧げることになる1つの病気の研究を始めた。その病気は当時のメキシコやカリブ海で発症率が高く、SAN LAZARO 病院に訪れる患者も多かったことから「SAN LAZARO 病」または「象皮病」と呼ばれていた。初期段階では皮膚に熱をもった赤い瘡ができ、時間が経つと潰瘍になる病気であった。彼は熱心に研究に取り組み、その病名を現在でも用いられる「LEPRA MANCHADA」と名づけた。

1851年、32歳のとき、その研究成果をメキシコ医療学会で発表した。その研究の正確かつ完璧さ故に、学会でその病気に対し DOCTOR RAFAEL の名にちなんで「LEPROMATOSIS DIFUSA DE LUCIO Y LATAPI」という名前が付けられた。この病気の知識を世に広めた彼の功績は大きいものであった。

この病気は、1873年にノルウェー人のハンセン医師が病原菌である「らい菌」を発見したことから、世界的には「ハンセン病」として一般化することになるが、スペイン語圏では現在でも DOCTOR RAFAEL が名づけた「LEPRA」の名前で認知されている。このことは、病による外見や感染の恐怖から、差別を受けていた患者を恐れず、慈しみをもって研究に励み、その67年の生涯をかけて患者たちの力となった、DOCTOR RAFAEL へのスペイン語圏における評価と言えるであろう。

SAN LAZARO 病院 は、アメリカ大陸で3番目に古い病院である。これにちなみ植民地時代の最初期にアメリカ大陸に建てられた3軒の病院を紹介しようと思う。

- (1) **HOSPITAL DE SAN NICOLAS DE BARI**
アメリカ大陸最古の病院でアルカンタラ騎士団出身でエスパニョーラ島(現在のハイチとドミニカ)の第3代統治者 NICOLAS DE OVANDO により 1508年に建てられた。彼の統治時代は先住民を最も残虐に扱った時代であった。
- (2) **HOSPITAL DE JESUS NAZARERO**
スペイン人植民者エルナン・コステスがアステカ帝国9代目君主モクテスマ2世に初めて出会ったとされるメキシコのテノチティトランに 1524年に建てられた2番目に古い病院である。病院はセントロ地区 Av 20 de Noviembre 86 Col. Centro に現存。
- (3) **HOSPITAL DE SAN LAZARO**
こちらも同じくエルナン・コルテスによりメキシコシティに 1524年に建てられた病院である。何度か人の手に渡り、病院以外の用途で用いられることもあった。現在はこの病院の建物の一部が IGLESIA DEL ANTIGUO HOSPITAL DE SAN LAZARO の一部となっている。住所: Emilio Zapata, Venustiano Carranza Col. 7 de Julio y 10 de mayo。

ANA メキシコ支店開設

ANA/全日本空輸(株)メキシコ営業支店
支店長 大下秀史

メキシコ・日本アミーゴ会の皆様、はじめまして、ANA/全日本空輸(株)メキシコ営業支店の大下（おおしも）と申します。本年 2015 年 7 月 1 日付けで、メキシコ D.F.のレフォルマ通り沿いの高層ビルの一 corner に営業支店を開設いたしました。ANA としましては米国以南で初めての支店の開設であり、今後、更に増加が見込まれる日本とメキシコ及び中南米との間の人と物の流動に対応した路線・サービスを提供して参ります。

ご承知の通り、日本からメキシコへの投資、企業の進出が近年急増しており、これに伴い在留邦人の数も増加しております。特徴的なこととしては、日系自動車各社及び自動車関連企業の進出が特に著しい中央高原地帯の日系企業数及び在留邦人数が急増しております。既にメキシコに進出している日産、ホンダ、マツダに加え、2019 年にトヨタが生産を開始する予定であり、更なる日系企業及び在留邦人の増加が見込まれます。

ANA は本年 2015 年 6 月 12 日に成田＝ヒューストン線を新規に開設し、ヒューストンからユナイテッド航空とのコードシェア便で日系企業の進出が著しいレオン/ケレタロ/アグアスカリエンテス/グアダハラ/モンテレー、カンクン及びメキシコ D.F.に就航しており、増加する日本とメキシコの各都市間の需要に応じております。特徴的なサービスとしましては、成田で手荷物をお預けいただければ、ヒューストンで乗り継ぎする際に手荷物を引き取る必要がなく、メキシコの最終目的地での引き取りとなります。これによりヒューストンでの乗り継ぎが快適、且つスムーズになりました。また、従来より就航しておりますロサンゼルス、サンフランシスコ、シカゴ等の他の米国都市を経由した日墨間のサービスも提供しております。是非、皆様のご利用をお待ち申し上げます。

このように急増する日墨間の需要を背景に、日墨間の日系航空会社の直行便就航への期待が大変高まっております。ANA としましては日墨間の直行便を視野に入れておりますが、現在、エンジン・機材の技術的な課題の対応の研究を進めている状況であり、現時点で就航時期を明言できる段階には至っておりません。しかしながら直行便就航に向けた計画は進行しておりますので、その間はヒューストン及び他の米国都市を経由した日墨間のサービスの向上に努めて参ります。



ANA としましても今般の支店の開設を契機に、このように益々、人とモノだけではなく文化も含めた幅広い交流が拡大するであろう日本とメキシコの間行き来が更に便利で快適になるよう努力して参りますので、今後ともご指導ご支援いただければ幸いです。

私自身はメキシコに着任して未だ 2 ヶ月足らずですが、お蔭様ですっかりメキシコでの生活に馴染んでおり日々生活を楽しんでおります。親日国であるメキシコとの関係が更に深まり拡大するよう微力ながら貢献できればと願っております。



最後に、この場を提供くださいましたメキシコ・日本アミーゴ会に御礼申し上げます。締めさせていただきます。
¡¡VIVA MEXICO!!

あとがき：アミーゴ会は 9 月 19 日、誕生の地で 15 周年を祝いました。アルパ奏者の今村夏海さんは El Cascabel から Cielito Lindo まで全 6 曲を奏でて花を添えてくれました。艶やかなご夫人たちのご出席で会場は華やかな雰囲気になりました。本誌も今号で創刊丸 6 年となり次号から 7 年目に入ります。引き続き会員諸氏のご投稿を期待しつつ“交流誌”としての役割を果たして参りたく存じます。[か 1006]